

授業科目	看護学					実務家教員担当科目	○
単位	2	履修	選択	開講年次	3	開講時期	後期
担当教員	財津 優子、中原 智美、吉原 悅子、樋口 由貴子、井手 裕子、矢治 亜樹子						
授業概要	<p>本講義では、看護の歴史と代表的な看護理論、看護のとらえ方や看護の定義について解説する。さらに生活者としての人間の捉え方や看護援助の目的等について解説し、看護とは何かが具体的にイメージできるようにする。看護の機能として、健康障害の予防や健康の保持増進の意義と方法、健康レベルに応じた保健活動や疾病・症状別の看護を解説する。加えて、高齢者に対する支援体制としての地域包括ケシステムについても解説する。</p> <p>講義全体を通して、対象に応じた具体的な看護の方法論を提示し、保健医療チームにおける専門職種間の連携のあり方や情報共有と継続的関わりについて考える一助とする。授業はオムニバス形式とし、6名の担当教員で実施する。</p> <p>本科目は看護学科に所属する実務家教員がオムニバスで担当し、臨床現場の実際も含め概説する。</p>						
授業形態	対面授業	授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション ・プレゼンテーション 				

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	1. 看護の概念について説明できる。(DP1-2) (DP2-1)
	2. 生活者としての人間の「生活」の4つの側面について説明できる。(DP1-2) (DP2-1)
	3. 健康障害の予防や健康の維持増進に向けた看護の要点、地域包括ケアシステムについて説明できる。(DP1-2) (DP2-1) (DP3-1)
	4. 多職種チームとしての継続的関わりについて説明できる。(DP2-1) (DP3-1) (DP5-1)
	5. 看護師の役割や多職種チームとしての継続的関わりについて考察し、発表することができる。(DP1-2) (DP2-1) (DP3-1) (DP5-1)
	行動目標の1~5について理解し、自己の考えを述べることができる。
理想的レベル	専門職である看護師の専門職種間における役割について述べることができる。 継続した看護の必要性について述べることができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合(数値)	備考
試験	0	
小テスト	0	
レポート	84%	
発表(口頭、プレゼンテーション)	16%	
レポート外の提出物	0	
その他	0	

カリキュラムマップ(該当 DP)・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	NT11106J
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	--------	----------

学習課題(予習・復習)

1回の目安時間(時間)

講義内容の復習を行う。	4
-------------	---

授業計画

第 1 回	テーマ：オリエンテーションと看護学概論（財津倫子） ・看護の歴史、看護理論、看護の定義について解説する。
第 2 回	テーマ：「生活」の 4 つの側面（財津倫子） ・生活者としての人間について「4 つの側面」から解説し、多職種チームとしての情報共有と継続的関わりについて解説する。
第 3 回	テーマ：子どもの健康と栄養（樋口由貴子） 【基礎編】 ・子どもの食物アレルギーについて解説し、対応の仕方を学ぶ。
第 4 回	テーマ：子どもの健康と栄養（樋口由貴子） 【治療編】 ・子どもの食物アレルギーについて解説し、対応の仕方を学ぶ。
第 5 回	テーマ：慢性疾患を持つ患者の看護 1（中原智美） ・がんの治療と看護について解説する。
第 6 回	テーマ：慢性疾患を持つ患者の看護 2（中原智美） ・終末期におけるがん看護について解説する。
第 7 回	テーマ：慢性疾患を持つ患者の看護 1（井手裕子） ・生活習慣病の 1 例として、糖尿病患者への看護について解説する。
第 8 回	テーマ：慢性疾患を持つ患者の看護 2（井手裕子） ・生活習慣病の 1 例として、糖尿病患者への看護について解説する。
第 9 回	テーマ：急性疾患患者の看護 1（財津倫子） ・胃がんの手術を受ける患者の看護を解説する。
第 10 回	テーマ：急性疾患患者の看護 2（財津倫子） ・胃がんの手術を受ける患者の看護を解説する。
第 11 回	テーマ：精神疾患患者の看護 1（矢治亜樹子） ・統合失調症・うつ病を持つ人へのケアとチームアプローチ
第 12 回	テーマ：精神疾患患者の看護 2（矢治亜樹子） ・アルコール依存症・摂食障害をもつ人へのケアとチームアプローチ
第 13 回	テーマ：疾病を持つ高齢者の看護（吉原悦子） ・脳血管疾患、認知症について解説する。について解説する。
第 14 回	テーマ：療養が必要な人々の看護（吉原悦子） ・地域での療養生活を支える看護を解説する。
第 15 回	テーマ：全体の講義のまとめ（財津倫子） ・全体の講義を通して、看護師の役割や、多職種チームとしての継続的関わりについて考察する。
テキスト	特に定めていません。必要時、資料等を配布します。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方針	・オムニバス形式の講義で、それぞれの教員が講義時間内にレポートを課し、評価します。持ち帰っての課題はありません。

	<ul style="list-style-type: none">・レポートのまとめ方については、講義中に提示します。・レポートを提出する際は、引用文献も記載してください。
学生へのメッセージ・コメント	<ul style="list-style-type: none">・既習の解剖生理学、病理学、臨床生理学などで学んだことを振り返っておいてください。・本講義はオムニバス形式にて各看護学領域の教員で担当します。・第一回目の講義が栄養学科の実習と重なり、補講（土曜日に補講予定）となります。変更については初回講義時にオリエンテーションします。その他にも、看護学科の実習の関係で講義順序を変更する可能性がありますので、その都度ご連絡します。ご注意ください。・将来、栄養の専門職として、看護師と協同することを考えながら、学習を進めましょう。

